

昭和大学医学部

脳神経内科

年

報

第5号

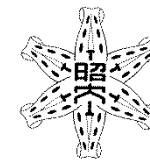
二〇二〇年一月～二〇二〇年十二月

昭和大学医学部内科学講座 脳神経内科学部門

昭和大学医学部 脳神経内科

年 報

第5号



2020年1月～2020年12月

昭和大学医学部内科学講座 脳神経内科学部門

目 次

年報第 5 号の刊行にあたって	1
[1] 出来事・人事異動	4
[2] 診 療	8
[3] 症例検討会	12
[4] 教育活動	13
[5] 業 績	18
(1) 論文・著書	18
(2) 学会・研究会等	25
(3) その他の対外活動（委員会、取材など）	37
[6] 研究助成	37
[7] 学位・専門医・認定医など	39
[8] 褒 賞	39
[9] 特 許（申請中も含む）	39
[10] 附属病院の紹介	40
[11] 大学在籍者名簿	43
編集後記	45

年報第5号の刊行にあたって

2020年(令和2年)の昭和大学内科学講座脳神経内科学部門教室の診療、教育、研究活動の記録をこの第5号にまとめました。

2020年について国内でのニュースに目を向けてみると(海外に目を向けても同じですが)、コロナ禍の一言につきます。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、政府は4月7日、緊急事態宣言を発令しました。都道府県は市民に外出自粛を呼びかけ、遊興施設や商業施設など幅広い業種に休業を要請し、繁華街や駅から人の姿が減り、今までとは全く違うゴールデンウィークを過ごしました。街ではマスクやうがい薬などの品切れが続き、入院病床や医療物資の不足が問題となり、我々も様々な要請を受け、医療の矛盾に悩み続けることになりました。緊急事態宣言は5月下旬に全面解除されましたが、今尚、混乱は続いております。

“ソーシャルディスタンス”の確保やマスク着用などの「新しい生活様式」が浸透し、自宅などで勤務するテレワークをはじめ、感染リスクが高まるとされる“3密”を回避するようになりました。その一方で、経済的打撃は避けられない現実となり、政府は国民一人あたり10万円の給付金や、企業に支給する「雇用調整助成金」の拡充などを盛り込んだ緊急経済対策を実施し、7月には、苦境に陥った観光業界を支援する“Go To Travel”も始まりました。

しかし、それも束の間、8月と11月には感染が再拡大し、12月には1日の新規感染者数が過去最多の水準となり、Go To Travel事業も年末には全国一斉停止に追い込まれました。

この新型コロナ猛威により昨夏に行われるはずだった東京五輪・パラリンピックは、1年の延期となり、国内の感染拡大が収束する兆しが見えない中、今夏に行われるかも不透明な状況です。

我々の学問的交流の場である学会活動も大きく制限され、毎年の楽しみであった神経学会学術大会などの学会もハイブリッド開催となり、海外の演者は来日不可能となり、自分自身も様々な発表の機会をいただきましたが、聴講者が少なく寂しい思いをしました。毎年欠かさず参加していたアルツハイマー関連国際会議もオランダ渡航を断念せざるを得ませんでした。WEB開催はどこでも発表したり、聴いたりできるというメリットがあることを知る一方で、やはり、学会

会場でのリアルな緊張感の重要性も感じずにはいられませんでした。

暗いニュースばかりでしたが、吾峠呼世晴さんの漫画“鬼滅の刃”が大ヒットしたのは明るいニュースの一つでした。アニメの大ヒットに続いて、10月に公開された映画「無限列車編」の累計興行収入が、日本で上映された映画としては歴代最速の10日間で100億円を突破し、国内興行収入ランキングで「千と千尋の神隠し」を抜き、歴代1位となりました。12月に発売された最終巻は、初版部数395万部の大ヒットとなり、恥ずかしながら愚生も探し回って桜新町の本屋で単行本を見つけた時は興奮しました。主人公 炭治郎が、妹である禰豆子を人間に戻すため、また家族を殺した鬼に復讐するため鬼狩りへの道へと進むダーク・ファンタジーですが、鬼殺隊の柱たちと鬼たちの壮絶な戦いとその裏にある感動的な人生物語にどんどん引き込まれていきました。

私たちは、一度しかない人生の中で出会った多くの恩師、友人、医局員、メディカルスタッフ、学生、共同研究者の方々、そして患者さん等と同じ時間を共有していることに感謝して、みなさん一人一人が happy な笑顔になれるように心がけて診療、研究、教育に取り組み続けていきたいと決意を新たにしました次第です。

2020年は、診療面では昭和大学病院では、コロナ禍の中ではありましたが、水間先生を中心とした脳卒中領域において、脳外科だけでなく、新家教授率いる循環器内科との連携がさらに深まり、“Brain-Heart team”が本格的に動き出し、PF0の診断・閉鎖も含めて様々なアプローチで脳卒中診療に貢献することができました。また、認知症領域の地域医療への貢献として同級生の藤元君（鳳優会）のご協力を得て開催している「もの忘れカフェ」は、中止せざるを得ない状況になってしまいましたが、開催の要望も沢山いただき地域の方々の期待の大きさを感じました。

学問におきましては、このコロナ禍の中で、学会での発表、国際誌の症例報告、原著論文、総説論文の発表も教室員が臨床で忙しい中で頑張ってくれました。特に二村先生らの認知症患者における CIS とバイオマーカーとの関連を調べた論文、黒田先生らの microbleeds と脳室拡大や白質高信号との関連を検討した論文、そして α シヌクレイン凝集を高速原子間力顕微鏡でリアルタイムに捉えることに成功した論文は国内外で高い評価を得ることができました。これもひとえに学内外の皆様方の御教授のおかげであり、心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、この年報第5号を皆様に御高覧いただき、今後とも一層の御指導、御鞭撻を賜われますようよろしくお願い申し上げます。

2021年3月
教授/診療科長 小野 賢二郎

【1】 出来事・人事異動

2月21日

東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 脳神経内科 教授 鈴木正彦 先生より

『神経変性疾患鑑別における核医学実践応用』
のタイトルでご講演を賜りました。



新型コロナウイルス感染症の影響により、以降の講演会はすべて Web 開催となりました。

7月3日

埼玉医科大学 国際医療センター 核医学科 教授 久慈一英 先生より

『認知症診断における画像診断の有用性』
のタイトルでご講演を賜りました。

7月17日

金沢大学大学院 脳老化・神経病態学（神経内科学）教授 山田正仁 先生より

『アルツハイマー病（AD）類似の非ADタウオパチー』
のタイトルでご講演を賜りました。

8月4日

新潟大学脳研究所・医歯学総合病院脳神経内科 准教授 河内泉 先生より

『NMOSD 治療の新たな選択肢』

のタイトルでご講演を賜りました。

10月23日

慶應義塾大学病院神経内科 教授 中原仁 先生より

『MS 治療 – リスク vs ベネフィットバランスの最適化 –』

のタイトルでご講演を賜りました。

11月10日

慶應義塾大学病院神経内科 准教授 伊東大介 先生より

『脳神経内科診療における proteinopathy imaging の現状と展望』

のタイトルでご講演を賜りました。

12月18日

公益財団法人結核予防会 複十字病院 認知症疾患医療センター長 飯塚友道 先生より

『コロナ禍での認知症診療 ～脳 SPECT の役割～』

のタイトルでご講演を賜りました。



〈2021年3月 医局集合写真〉

(2) 大学人事異動

<新入医局員>

菊 地 優 一

島 田 豪

中 西 達 彌

松 岡 馨

柿 沼 佑 樹

イズデプスキ 彬子

<転入>

な し

<転出>

4月

内 山 正 信：横浜市北部病院より在宅クリニック「ターラント」船橋へ

黒 川 信 二：藤が丘病院より中希望が丘診療所へ

所 澤 任 修：昭和大学病院より杏林大学医学部附属病院へ

11月

田 中 健一郎：江東豊洲病院より鳥取大学医学部附属病院へ

<昭和大学附属病院内異動>

4月

飯塚 奈都子：昭和大学病院より江東豊洲病院へ

浅野 未希：昭和大学病院より藤が丘病院へ

栄 良樹：昭和大学病院より横浜市北部病院へ

小室 浩康：江東豊洲病院より昭和大学病院へ

大橋 英朗：横浜市北部病院より昭和大学病院へ

10月

高橋 聖也：昭和大学病院より藤が丘病院へ

安本 太郎：昭和大学病院より藤が丘病院へ

浅野 未希：藤が丘病院より昭和大学病院へ

山本 謙：藤が丘病院より江東豊洲病院へ

飯塚 奈都子：江東豊洲病院より昭和大学病院へ

【2】 診 療

外来より

当科の外来は昭和大学病院および昭和大学病院附属東病院で行っております。

令和2年は、ひとえに新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の一言に尽きると思います。外来患者数に関しては、一般的に言われている通り COVID-19 による受診控えの影響が多分にありました。

初診患者総数は 1,500 人（前年比 -495 人）であり、ご紹介患者様は例年と変わりなく地域の皆様から信頼される診療体制が徐々に浸透していることを実感する一方で、直接来院する初診患者様は減っており、COVID-19 による受診控えの影響が多分にあるものと推定されました。再診患者総数は 11,656 人（前年比 -3,327 人）であり、ここ2年間は減少傾向が続いております。前々年度から当院で取り組んでいる「ふたり主治医制度」の結果が表れてきたと思います。

「ふたり主治医制度」とは、患者さん一人に対し、当院の医師と地域の「かかりつけ医」が互いに連携しながら共同で継続的に治療を行うことです。患者様に「ふたり主治医」を持ってもらい、それぞれの診療分担を明確にして協力体制のもと患者様の健康管理を行い、安心して住み慣れた地域で医療を受けられるような地域医療連携を当院では推進しておりました。しかし再診患者様の減少傾向はこの結果だけでなく、先述の COVID-19 による受診控えの影響も多分にあると思われまます。最近では受診控えによる悪影響が指摘されるようになってきており、COVID-19 による受診控えは社会問題となりつつあります。微々たる情報力かもしれませんが、当科だけでなく病院全体、大学全体で受診控えをしないための情報を配信していきたいと思っております。

COVID-19 による感染は近いうちに終息することを切に願い、今後さらに、一人でも多くの患者様に満足してもらえよう、よりアカデミックで、より地域に貢献できる神経内科外来を目指して、一般外来および特殊外来スタッフ一同、日々研鑽を積んで参る所存であります。

外来医長 笠井 英世

令和2年 昭和大学病院 外来担当医(12月31日現在)

		月	火	水	木	金	土
脳神経内科	午前	初・再診	<一般> 小野 賢二郎 河村 満				
	午後	再診			<経食道心臓超音波> 水間 啓太		

令和2年 昭和大学附属東病院 外来担当医(12月31日現在)

		月	火	水	木	金	土	
脳神経内科	午前	初・再診	<一般> 稗田 宗太郎 二村 明德 渡辺 大士	<一般> 矢野 怜 黒田 岳志 渡辺 慶子	<一般> 稗田 宗太郎 杉本 あずさ 久保田 怜美	<一般> 堀部 有三 兼元 みずき 笠井 英世 飯塚 奈都子	<一般> 矢野怜/杉本あずさ(第1) 兼元みずき/二村明德(第2) 黒田岳志/水間啓太(第3) 笠井英世/渡辺大士(第4) 渡辺慶子(第5)	<一般> 笠井英世/水間啓太(第1) 矢野怜/黒田岳志(第2) 杉本あずさ/久保田怜美(第3) 二村明德/渡辺慶子(第4) 兼元みずき(第5)
	午後	再診	渡辺 慶子 <物忘れ外来 (完全予約制)> 交代制* <高次脳機能外来 (完全予約制)> 二村 明德 <脳卒中再診外来 (完全予約制)> 水間 啓太	矢野 怜 <電気生理外来 (完全予約制)> 黒田 岳志	南雲 清美(1週) 杉本 あずさ	兼元 みずき <頭痛外来 (完全予約制)> 笠井 英世 <ポツクス外来 (完全予約制)> 飯塚 奈都子	矢野怜/杉本あずさ(第1) 兼元みずき/二村明德(第2) 黒田岳志/水間啓太(第3) 笠井英世/渡辺大士(第4) 渡辺慶子(第5) <電気生理外来 (完全予約制)> 大野 英樹 (1, 3, 4, 5週)	笠井英世/水間啓太(第1) 矢野怜/黒田岳志(第2) 杉本あずさ/久保田怜美(第3) 二村明德/渡辺慶子(第4) 兼元みずき(第5)

交代制*担当医師
小野 賢二郎
稗田 宗太郎
矢野 怜
黒田 岳志
笠井 英世
杉本 あずさ
二村 明德
森 友紀子

外来患者数(2020年1月~12月)

初診	1500	人
再診	11656	人

昭和大学病院(脳神経内科)

月	R2.1	R2.2	R2.3	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11	R2.12	合計
初診	23	19	19	21	11	17	19	15	31	22	24	15	236
再診	52	49	51	27	37	51	42	39	41	35	40	47	511
合計	75	68	70	48	48	68	61	54	72	57	64	62	747 人

昭和大学附属東病院(脳神経内科)

月	R2.1	R2.2	R2.3	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11	R2.12	合計
初診	109	113	91	72	61	127	105	95	121	140	120	110	1264
再診	1169	1032	1204	819	618	906	891	827	923	936	855	965	11,145
合計	1,278	1,278	1,278	1,278	1,278	1,278	1,278	1,278	1,278	1,278	1,278	1,278	12,409 人

病棟より

2019年8月から病棟医長を担当しております。日本では高齢化が進む中、神経疾患に罹患する患者さんが増え、脳神経内科の需要は年々大きくなっているように感じます。昭和大学病院の脳神経内科の特色の一つは、脳卒中やてんかん、神経感染症のような急性期疾患から認知症、変性疾患、筋・末梢神経疾患に至るまで幅広く診療している点にあります。近年、脳神経内科の分野も診療の細分化が進む中、我々は「脳神経のジェネラリスト」を目指し、日々精進しております。診療が浅くならないように、症例カンファランスを行い、個々の得意分野の知識を共有して、全員で診断や治療方針の確認を行うよう努めています。病棟では一般班3班に加えて、脳卒中を担当する1班の合計4班集体で診療にあたっており、各班は神経内科専門医を含む4～5名で構成されています。複数人で1人の患者さんを担当することは手厚く間違いのない診療を可能にするとともに、初期臨床研修医や専攻医への十分な教育も意識した診療体制となっております。また、病棟医長の責務は病棟の運営や安全の確保を担うことであるとともに、病棟医がやり甲斐を持って楽しく働けるようにすることだと感じておりますので、引き続きそのような環境で医局員が働けるよう尽力したいと思います。

しかし、今年度は新型コロナウイルスの蔓延に伴い従来入院診療が思うようにできなかった年でもありました。外来からの予約入院の制限や脳卒中の受け入れ制限もあり、入院患者数は例年と比較して減少しました。また家族の面会制限に伴い、治療経過や検査結果の説明も電話での対応が主体となり、ご理解を得るのに苦労する場面もありました。さらに個人的な印象として、自宅退院できる状態でも自宅での受け入れが困難というケースが例年に比べて増加したと感じられ、施設や療養型病院への転院を余儀無くされることが少なからずありました。さらに教育面でも定期的に行っていた教授回診や症例カンファランスも開催の自粛をせざるを得ない状況も多々ありました。このように新型コロナウイルスは罹患患者の健康状態を蝕むだけに留まらず、脳神経内科の入院診療にもさまざまな影響を与えました。

そんな中、ソーシャルワーカーや当院からの転院を快く受け入れてくださったリハビリテーション病院や療養型病院・施設の先生およびスタッフの皆様の尽力により、調整が大きく滞ることもありませんでした。また病棟に入院した患者さんに寄り添って頂いた看護師の方々、予期せぬ緊急入院にも快くご対応頂いた事務の方々、患者さんの検査に付き添って頂いたヘルパーの方々には例年通り、大変お世話になりました。また当院からの継続加療を快く受け入れてくださった地域のクリニックや訪問診療を担う先生方の存在は、大変心強いと感じています。皆様のお力添えあつての昭和大学病院だと思っています。この場を借りて脳神経内科一同、御礼を申し上げます。

病棟医長 黒田岳志

病棟（入院患者）

疾患内訳	症例数	疾患内訳	症例数
血管障害・外傷		筋・神経筋接合部疾患	
脳梗塞	204	重症筋無力症	5
一過性脳虚血発作	10	多発性筋炎	2
動脈解離による脳梗塞	3	横紋筋融解症	2
脳静脈洞血栓症	3	筋強直性ジストロフィー	1
脊髄梗塞	3	その他のミオパチー	2
脳出血	2	運動ニューロン疾患	
トルソー症候群	2	筋萎縮性側索硬化症	7
内頸動脈狭窄症	2	その他の運動ニューロン疾患	2
妊娠合併脳梗塞	1	発作性・機能的疾患	
一過性全健忘	1	てんかん	89
頭部外傷	1	片頭痛	1
認知症		群発頭痛	1
アルツハイマー病	12	良性頭蓋内圧亢進症	1
レビー小体型認知症	7	腫瘍性疾患	
正常圧水頭症	7	脳腫瘍	2
前頭側頭葉変性症	2	脊椎疾患	
その他の認知症	1	頸椎症・頸髄症	5
神経変性疾患		胸椎症・胸部脊柱管狭窄症	1
パーキンソン病	54	腰椎症・腰部脊柱管狭窄症	1
パーキンソン症候群	15	内科関連疾患・耳鼻科関連疾患	
多系統萎縮症	6	市中肺炎・誤嚥性肺炎	15
進行性核上性麻痺	3	尿路感染症	7
脊髄小脳変性症	2	末梢性めまい	5
大脳皮質基底核変性症	1	ウェルニッケ脳症	3
神経感染症		敗血症	2
ウイルス性髄膜炎・脳炎	24	電解質異常	2
クロイツフェルトヤコブ病	3	悪性症候群	2
脳膿瘍	2	失神	2
細菌性髄膜炎	1	脱水症	1
クリプトコッカス性髄膜炎	1	肺静脈血栓塞栓症	1
神経梅毒	1	高血糖高浸透圧症候群	1
脱髄・炎症・肉芽腫性疾患		COVID-19感染症	1
多発性硬化症	16	その他の疾患	
自己免疫性脳炎	7	精神性疾患	4
視神経脊髄炎	3	関節リウマチ	1
トロサ・ハント症候群	2	ミオクローヌス	1
急性小脳炎	2	不随意運動	1
その他の脳症・脳炎	6	レット症候群	1
その他の脊髄炎	1	廃用症候群	1
末梢神経疾患		熱中症後脳症	1
ギラン・バレー症候群	8	急性アルコール中毒	1
慢性炎症性脱髄性多発神経根炎	5	過鎮静	1
多巣性運動ニューロパチー	5	その他	8
末梢神経障害	3		
ベル麻痺	2		
滑車神経麻痺	1		
動眼神経麻痺	1		
視神経炎	1		
眼窩先端部症候群	1		
		合計	622 例

【3】 症例検討会

日付	年齢	性別	題 名	診 断	担当医
1月23日	28	F	エタネルセプト投与中に中枢神経系に多発する脱髄病変をきたした28歳女性例	抗TNF α 抗体関連中枢神経脱髄の疑い	矢野・兼元・栄・井藤・イズデプスキ
2月7日	89	F	脳梗塞治療中に platypnea-orthodeoxia syndrome と診断し、カテーテル治療で卵円孔閉鎖を行い改善を認めた一例	奇異性脳塞栓症、platypnea-orthodeoxia syndrome	水間・渡辺大・所澤・澤井・吉田・片岡
2月14日	83	M	交通外傷後に亜急性の経過で両側声帯麻痺をきたした83歳男性の一例	外傷性両側声帯麻痺	笠井・杉本・二村・野原・石代・石田
2月28日	90	F	CPC 2016/3/18 brain cutting 症例	ALS-D	当時担当:二村・門馬・野原
3月13日	69	M	Parkinsonism で発症した神経梅毒で治療後に血清抗体再活性化した69歳男性例	神経梅毒	笠井・杉本・二村・野原・石代・片岡

以降、コロナ禍により、一同に集合してのケースカンファレンスは施行できず、各班毎に施行

【4】 教育活動

〔4〕 教育活動

(1)講義

昭和大学の各学部および看護専門学校に以下の通り講義を行った。

医学部 2年 中枢神経の生理

日付	学習内容	担当
WEB 講義	脊髄・大脳基底核の機能と障害	稗田 宗太郎
WEB 講義	大脳皮質・小脳の機能と障害	稗田 宗太郎

医学部 3年 症候学 I

日付	学習内容	担当
WEB 講義	痙攣・意識障害・失神	兼元 みずき

医学部 3年 系統講義

日付	学習内容	担当
WEB 講義	ミオパチー：多発筋炎、筋ジストロフィー、重症筋無力症、周期性四肢麻痺など	黒田 岳志
WEB 講義	脊髄疾患総論：分類、症状、検査など	栗城 綾子
WEB 講義	高次脳機能障害：大脳皮質症状概論	二村 明德
WEB 講義	認知症：アルツハイマー型認知症など	小野 賢二郎
WEB 講義	末梢神経疾患(1)：総論、各論（編成・遺伝性疾患）	市川 博雄
WEB 講義	末梢神経疾患(2)：各論（脱髄、中毒・代謝、その他）	市川 博雄
WEB 講義	脊髄小脳変性症：臨床病型・症状など	矢野 怜
WEB 講義	パーキンソン病とその類縁疾患	小野 賢二郎
WEB 講義	てんかんと類縁疾患	二村 明德

WEB 講義	頭痛：1 次性頭痛と 2 次性頭痛	加藤 大貴
WEB 講義	脊髄疾患各論（各種脊髄疾患）	杉本 あずさ
WEB 講義	中枢神経感染症：髄膜炎・脳炎・脳膿瘍など	杉本 あずさ

医学部 4 年 医学英語 B

日付	学習内容	担当
WEB 講義	医学英語演習 1	杉本 あずさ
WEB 講義	医学英語演習 2	杉本 あずさ
WEB 講義	医学英語演習 3	杉本 あずさ

医学部 4 年 CBT 特別講義

日付	学習内容	担当
WEB 講義	CBT 対策特別講義	稗田 宗太郎

医学部 4 年 診察技法実習

日付	学習内容	担当
8 月 24 日	神経系(四肢・末梢)診察	兼元 みずき
実施中止	神経系(四肢・末梢)診察	二村 明德
8 月 26 日	神経系(四肢・末梢)診察	渡辺 大士
8 月 27 日	神経系(四肢・末梢)診察	久保田 怜美
8 月 28 日	神経系(四肢・末梢)診察	渡辺 慶子

医学部 4 年 症候学 II

日付	学習内容	担当
WEB 講義	意識障害、けいれん	黒田 岳志
WEB 講義	聴力障害、めまい、耳鳴	栗城 綾子
WEB 講義	視力障害、視野障害、眼球運動障害	稗田 宗太郎

医学部 5 年 症候学Ⅲ

日付	学習内容	担当
WEB 講義	嚥下障害、誤嚥	黒田 岳志
WEB 講義	運動麻痺、運動失調、筋力低下	稗田 宗太郎
WEB 講義	歩行障害、不随意運動、胸背部痛、筋肉痛	大湾 喜行
WEB 講義	感覚障害	二村 明德
WEB 講義	構音障害、失語	矢野 怜
WEB 講義	頭痛、頭重感	笠井 英世
WEB 講義	悪心、嘔吐、胸焼け、腹部膨満	大中 洋平
WEB 講義	排尿障害	森 友紀子
WEB 講義	思考障害(妄想・脅迫)、記憶障害、幻覚、食欲不振	稗田 宗太郎
WEB 講義	抑うつ、躁状態、不安、恐怖、睡眠障害	杉本 あずさ

医学部 6 年 集中講義

日付	学習内容	担当
WEB 講義	神経内科(総論・各論)	稗田 宗太郎
WEB 講義	神経内科(総論・各論)	稗田 宗太郎
WEB 講義	神経内科(総論・各論)	笠井 英世
WEB 講義	神経内科(総論・各論)	笠井 英世

歯学部3年 ヒトの病気

日付	学習内容	担当
WEB 講義	神経疾患2：神経内科総論	矢野 怜
WEB 講義	神経疾患3：頭頸部痛・内科の対応	稗田 宗太郎

歯学部4年 高齢者歯科

日付	学習内容	担当
WEB 講義	神経内科・脳血管障害	稗田 宗太郎
WEB 講義	神経内科・脳変性疾患	稗田 宗太郎
WEB 講義	神経内科・認知症	矢野 怜

薬学部3年 薬と疾病

日付	学習内容	担当
WEB 講義	脳血管疾患、認知症	稗田 宗太郎
WEB 講義	神経・筋疾患の症候と代表的な筋疾患	稗田 宗太郎
WEB 講義	脳腫瘍、脳炎、プリオン病など	稗田 宗太郎
WEB 講義	パーキンソン病とその関連疾患	稗田 宗太郎
WEB 講義	てんかん	稗田 宗太郎

保健医療学部 理学・作業療法学科2年生 臨床医学神経内科

日付	学習内容	担当
WEB 講義	脳神経疾患総論	市川 博雄
WEB 講義	神経症候の診かた	市川 博雄
WEB 講義	脳血管障害 総論・各論	神谷 雄己

WEB 講義	高次脳機能障害	金野 竜太
WEB 講義	末梢神経疾患 総論・各論	矢野 怜
WEB 講義	筋疾患・神経筋接合部疾患	金野 竜太
WEB 講義	変性疾患 (PD, PD 類縁疾患・ALS・認知症)	稗田 宗太郎
WEB 講義	脊髄疾患総論 総論・各論	馬場 康彦
WEB 講義	発作性疾患(頭痛・めまい・てんかん)、脳腫瘍	馬場 康彦
WEB 講義	中毒・代謝性疾患	矢野 怜
WEB 講義	感染性・伝染性疾患・炎症性・自己免疫性疾患	稗田 宗太郎

看護専門学校 臨床医学

日付	学習内容	担当
1月25日	脳神経内科	石垣 征一郎
2月1日	脳神経内科 2	石垣 征一郎
2月8日	脳神経内科 3	石垣 征一郎

例年行っている講義で COVID-19 の影響により中止・変更となった講義があります

(2)臨床実習

系統講義、共用試験 OSCE に合格して進級してきた学生に臨床実習が開始されるが、当科においても医学部4年の臨床実習(1週ずつ系統的に全科を回る)を受け入れ、学生指導を行った。(COVID-19の影響により学務課指示のもと中止となった日もあります)

(3)診療参加型臨床実習

系統的な臨床実習を終了し、その後の総合試験に合格した学生が診療参加型臨床実習(3～4週間を1タームとして希望した科を回る)を行う。本実習は医療スタッフの一員として各科に配属され、教室員と学生のコミュニケーションも濃厚となるなど、学生にとっても有意義な実習期間である。(COVID-19の影響により学務課指示のもと中止となった日もあります)

【5】業 績

(1) 論文・著書

(A) 原著論文

a. 英文

Abe K, Shang J, Shi X, Yamashita T, Hishikawa N, Takemoto M, Morihara R, Nakano Y, Ohta Y, Deguchi K, Ikeda M, Ikeda Y, Okamoto K, Shoji M, Takatama M, Kojo M, Kuroda T, Ono K, Kimura N, Matsubara E, Osakada Y, Wakutani Y, Takao Y, Higashi Y, Asada K, Senga T, Lee LJ, Tanaka K. A New Serum Biomarker Set to Detect Mild Cognitive Impairment and Alzheimer's Disease by Peptidome Technology. *J. Alzheimers Dis.* 73:217-227, 2020

Futamura A, Hieda S, Mori Y, Sugimoto A, Kasai H, Kuroda T, Yano S, Kasuga K, Murakami H, Ikeuchi T, Ono K. Cingulate Island Sign in Single Photon Emission Computed Tomography: Clinical Biomarker Correlations in Lewy Body Disease and Alzheimer's Disease. *J. Alzheimers Dis.*, in press

Futamura A, Hieda S, Mori Y, Kasuga K, Sugimoto A, Kasai H, Kuroda T, Yano S, Tsuji M, Ikeuchi T, Irie K, Ono K. Toxic amyloid β_{42} conformer may accelerate the onset of Alzheimer's disease in the preclinical stage. *J. Alzheimers Dis.*, in press

Futamura A, Nakamura M, Kawamura M, Sano A, Ono K. Novel *VPS13A* gene mutations in a South Asian, Indian patient with chorea-acanthocytosis. *Neurol. India* 68:206-208, 2020

Hanada K, Yokoi K, Futamura A, Kinoshita Y, Sakamoto K, Ono K, Hirayama K. Numbsense of shape, texture, and objects after left parietal infarction: A case report. *J. Neuropsychol.*, in press

Hieda S, Yasumoto T, Kokudai Y, Ono K. Optic Nerve Tortuosity in Idiopathic Intracranial Hypertension: A case report. *Intern. Med.* 59:2635, 2020

Honma M, Murakami H, Yabe Y, Kuroda T, Futamura A, Sugimoto A, Terao Y, Masaoka Y, Izumizaki M, Kawamura M, Ono K. Stopwatch training improves cognitive functions in patients with Parkinson's disease. *J. Neurosci. Res.*, in press

Ikeda Y, Kikuchi M, Noguchi-Shinohara M, Iwasa K, Kameya M, Hirose T, Yoshita M, Ono K, Samuraki-Yokohama M, Yamada M. Spontaneous MEG activity of the cerebral cortex during eyes closed and open discriminates Alzheimer's disease from cognitively normal older adults. *Sci. Rep.* 10:9132, 2020

Ishii M, Katoh H, Kasai H, Ishibashi M. Relationship between migraine and internet addiction in pharmacy students. *Japan J. Res.* 1:1-6, 2020

Kakinuma Y, Kimura T, Sakae Y, Kubota S, Ono K, Kinno R. Takotsubo syndrome associated with autoimmune limbic encephalitis: A case report. *BMC Cardiovasc. Disord.*, in press

Kikuno M, Ueno Y, Shimizu T, Kuriki A, Tateishi Y, Doijiri R, Shimada Y, Takekawa H, Yamaguchi E, Koga M, Kamiya Y, Ihara M, Tsujino A, Hirata K, Toyoda K, Hasegawa Y, Aizawa H, Hattori N, Urabe T. CHALLENGE ESUS/C.S. collaborators. Underlying embolic and pathologic differentiation by cerebral microbleeds in cryptogenic stroke. *J. Neurol.* 267:1482-1490, 2020

Kinno R, Muragaki Y, Maruyama T, Tamura M, Tanaka K, Ono K, Sakai KL. Differential effects of a left prefrontal glioma on the cortical thickness and complexity of both hemispheres. *Cereb. Cortex Comm.* 1: tga027, 2020

Kinno R, Osakabe Y, Takahashi S, Kurokawa S, Owan Y, Shimi J, Ono K, Baba Y. Recurrent hyperCKemia with immunological involvements to endomysial capillaries in neuromyelitis optica: A case report. *Intern. Med.* 59: 3079-3083, 2020

Kinno R, Osakabe Y, Takahashi S, Kurokawa S, Owan Y, Ono K, Baba Y. Nonsystemic vasculitic neuropathy in a patient with IgG-monoclonal gammopathy of undetermined significance: A case report. *Medicine (Baltimore)* 99:e19036, 2020

Kitahara K, Momo K, Nimura S, Okazaki K, Suzuki N, Kubota Y, Tsunoda T, Watanabe D, Mizuma K, Ono K, Sasaki T. A Case of Cerebral Infarction During Treatment With Rivaroxaban for Venous Thromboembolism. *Am. J. Ther.*, in press

Kubota S, Masaoka Y, Sugiyama H, Yoshida M, Yoshikawa A, Koiwa N, Honma M, Kinno R, Watanabe K, Iizuka N, Ida M, Ono K, Izumizaki M. Hippocampus and parahippocampus volume reduction associated with impaired olfactory abilities in subjects without evidence of cognitive decline. *Front. Hum. Neurosci.* 14:556519, 2020

Kuriki A, Ueno Y, Kamiya Y, Shimizu T, Doijiri R, Tateishi Y, Kikuno M, Shimada Y, Takekawa H, Yamaguchi E, Koga M, Ihara M, Ono K, Tsujino A, Hirata K, Toyoda K, Hasegawa Y, Hattori N, Urabe T. Atrial Septal Aneurysm may Cause In-Hospital Recurrence of Cryptogenic Stroke. *J. Atheroscler. Thromb.*, in press

Kuroda T, Honma M, Mori Y, Futamura A, Sugimoto A, Yano S, Kinno R, Murakami H, Ono K. Increased Presence of Cerebral Microbleeds Correlates with Ventricular Enlargement and Increased White Matter Hyperintensities in Alzheimer's Disease. *Front. Aging Neurosci.* 31:13, 2020

Miyauchi Y, Kamiya Y, Kuriki A, Kato Y, Wada T, Fujii T, Fukuda S, Komuro H. Utility of Coaxial Angioplasty–thrombectomy for Acute Tandem Occlusion of Intracranial and Extracranial Arteries. *J. Neuroendovasc. Ther.* 14:76-80, 2020

Nakamura-Shindo K, Ono K, Koh K, Ishiura H, Tsuji S, Takiyama Y, Yamada M. A novel mutation in the *GBA2* gene in a Japanese patient with SPG46: A case report. *eNeurologicalSci.* 19:100238, 2020

Noguchi-Shinohara M, Ono K, Hamaguchi T, Nagai T, Kobayashi S, Komatsu J, Samuraki-Yokohama M, Iwasa K, Yokoyama K, Nakamura H, Yamada M. Safety and efficacy of Melissa officinalis extract containing rosmarinic acid in the prevention of Alzheimer's disease progression. *Sci. Rep.* 10:18627, 2020

Noguchi-Shinohara M, Domoto C, Yoshida T, Niwa K, Yuki-Nozaki S, Samuraki-Yokohama M, Sakai K, Hamaguchi T, Ono K, Iwasa K, Matsunari I, Komai K, Nakamura H, Yamada M. A new computerized assessment battery for cognition (C-ABC) to detect mild cognitive impairment and dementia around 5 min. *PLoS One* 15:e0243469, 2020

Ono K, Zhao D, Wu Q, Simon J, Wang J, Radu A, Pasinetti GM. Pine Bark Polyphenolic Extract Attenuates Amyloid- β and Tau Misfolding in a Model System of Alzheimer's Disease Neuropathology. *J. Alzheimers Dis.* 73:1597-1606, 2020

Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Ikeda T, Hamaguchi T, Ono K, Yamada M. Cerebrospinal fluid cytokines and metalloproteinases in cerebral amyloid angiopathy-related inflammation. *Acta Neurol. Scand.*, in press

Sugimoto A, Kuroda T, Tsuda H, Ono K. Three-dimensional Imaging of Abducens Palsy by Neurovascular Compression. *Intern. Med.* 59:305-307, 2020

Sugimoto A, Shozawa H, Mizuma K, Hieda S, Ono K. Pallidal dementia with underlying sleep apnea syndrome: A case report and literature review. *Neurol. Sci.* 41:1961-1963, 2020

Suzuki F, Sato N, Ota M, Sugiyama A, Shigemoto Y, Morimoto E, Kimura Y, Wakasugi N, Takahashi Y, Futamura A, Kawamura M, Ono K, Nakamura M, Sano A, Watanabe M, Matsuda H, Abe O. Discriminating chorea-acanthocytosis from Huntington's disease with single-case voxel-based morphometry analysis. *J. Neurol. Sci.* 408:116545, 2020

Takahashi S, Kokudai Y, Kurokawa S, Kasai H, Kinno R, Inoue Y, Ezure H, Moriyama H, Ono K, Otsuka N, Baba Y. Prognostic evaluation of branch atheromatous disease in the pons using carotid artery ultrasonography. *J. Stroke Cerebrovasc. Dis.* 29:104852, 2020

Tanaka K, Kinno R, Muragaki Y, Maruyama T, Sakai KL. Task-induced functional connectivity of the syntax-related networks for patients with a cortical glioma. *Cereb. Cortex Comm.* 1:tgaa061, 2020

Watanabe-Nakayama T, Nawa M, Konno H, Kodera N, Ando T, Teplow DB, Ono K. Self- and Cross-Seeding on α -Synuclein Fibril Growth Kinetics and Structure Observed by High-Speed Atomic Force Microscopy. *ACS Nano* 14: 9979-9989, 2020

Watanabe Y, Ogino M, Ichikawa H, Hanajima R, Nakashima K. The Edinburgh Cognitive and Behavioural ALS Screen (ECAS) for Japanese ALS and FTD patients. *Amyotroph Lateral Scler Frontotemporal Degener.* in press

Yamasaki TR*, Ono K*, Ho L, Pasinetti GM. *Equally contributed Gut Microbiome-Modified Polyphenolic Compounds Inhibit α -Synuclein Seeding and Spreading in α -Synucleinopathies. *Front. Neurosci.* 14:398, 2020

Yoshimura S, Uchida K, Sakai N, Imamura H, Yamagami H, Tanaka K, Ezura M, Nonaka T, Matsumoto Y, Shibata M, Ohta H, Morimoto M, Fukawa N, Hatano T, Enomoto Y, Takeuchi M, Ota T, Shimizu F, Kimura N, Kamiya Y, Shimamura N, Morimoto T. Safety of Early Administration of Apixaban on Clinical Outcomes in Patients with Acute Large Vessel Occlusion. *Transl. Stroke Res.*, in press

b. 和文

石井正和, 片岡千佳, 加藤大貴, 笠井英世, 石橋正祥: 薬局での実務実習における頭痛患者対応の経験が学生にもたらす効果. *薬局薬学* 12:108-114, 2020

須永登美子, 東野真弓, 木村綾沙, 馬場康彦, 谷岡利裕, 渡邊 徹, 佐々木忠徳: 急性期脳梗塞患者におけるアルガトロバン投与中の症状悪化と投与方法の関連性についての検討. *YAKUGAKU ZASSHI* 140:1373-1380, 2020

(B) 総説論文

a. 英文

Ono K, Tsuji M. Protofibrils of Amyloid- β are Important Targets of a Disease-Modifying Approach for Alzheimer's Disease. *Int. J. Mol. Sci.* 21: 952, 2020

Ono K, Tsuji M, Yamasaki TR, Pasinetti GM. Anti-aggregation Effects of Phenolic Compounds on α -synuclein. *Molecules* 25:2444, 2020

Murakami H, Ono K, Shiraishi T, Umehara T, Omoto S, Iguchi Y. Correlations of cognitive domains with cerebrospinal fluid α -synuclein levels in patients with Parkinson's disease. *Front. Aging Neurosci.*, in press

Trageser KJ, Smith C, Herman FJ, Ono K, Pasinetti GM. Mechanisms of Immune Activation by *c9orf72* Expansions in Amyotrophic Lateral Sclerosis and Frontotemporal Dementia. *Front. Neurosci.* 13:1298, 2020

Watanabe-Nakayama T, Sahoo BR, Ramamoorthy A, Ono K. High-Speed Atomic Force Microscopy Reveals the Structural Dynamics of the Amyloid- β and Amylin Aggregation Pathways. *Int. J. Mol. Sci.* 21:4287, 2020

b. 和文

小野賢二郎: 診断バイオマーカーとしての α シヌクレイン. *BRAIN and NERVE: 神経研究の進歩* 72:137-141, 2020

小野賢二郎: 将来の認知症医療を見据えて 認知症領域におけるプロテオパチーの病因解明 up to date. *老年精神医学雑誌* 31:39-45, 2020

小野賢二郎：神経変性疾患の動物モデルの実験的治療：腸内微生物叢由来フェノール化合物の α -シヌクレイン凝集抑制効果. *神経治療学*, 印刷中

小野賢二郎：認知症診療の現状と将来展望：A β を中心とするアプローチ. *神経治療学*, 印刷中

小野賢二郎：認知症診療の知 　アルツハイマー病の疾患修飾療法の展望. *脳神経外科ジャーナル*, 印刷中

小野賢二郎：アルツハイマー病に対する新規疾患修飾療法. *神経治療学会ニューズレター* 3:1, 2020

金野竜太, 小野賢二郎：臨床 障害 言語機能障害. *Clinical Neuroscience* 38:211-213, 2020

黒田岳志, 小野賢二郎：神経症候学と神経診断学 -AIは敵か味方か？ 特異的症状の症候学・診断学とAI-健忘-. *Clinical neuroscience* 38:1391-1393, 2020

二村明德：神経心理学入門教育セミナー2 失行のみかた. *高次脳機能研究* 40: 199-203, 2020

(C) 著書

a. 英文

Kinno R, Ono K: High-density lipoprotein-cholesterol and neuroaging: memory and gyrification of the insular and frontal opercular cortex. In Factors affecting neurological aging. In: Martin CR, Preedy VR, Rajendram R, ed. Academic Press, Elsevier, Cambridge, MA, in press

b. 和文

小野賢二郎：症候編 脳神経・精神系の症候 軽度認知障害(MCI)・認知症. 永井良三(編) 今日の診断指針第8版. 医学書院, 東京, pp150-152, 2020

小野賢二郎：血管性認知症. 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編 今日の治療指針 2021年版. 医学書院, 東京, 印刷中

小野賢二郎：Alzheimer病. 園生雅弘, 北川一夫, 青木正志(編) 最新の治療 2021-2023年. 南江堂, 東京, 印刷中

小野賢二郎：アルツハイマー病とアミロイドβの現在．鈴木則宏，荒木信夫，宇川義一，桑原聡，塩川芳昭(編) Annual Review 神経 2021. 中外医学社，東京，印刷中

金野竜太：神経膠腫が大脳皮質に及ぼす機能的・構造的影響．廣川信隆，坂東武彦
ブレインサイエンス・レビュー．クバプロ，東京，pp145-168, 2020

栗城綾子：IV編 経食道心臓超音波 1章 TEE D.心内血栓 E.疣贅．日本脳神経
超音波学会発行・編集．脳神経超音波マニュアル 2020. 双文社，東京，pp142-149,
2020

稗田宗太郎：もの忘れ（認知症）．巖本三壽(編) 症候学的病態生理学．京都廣川
書店，京都，pp97-104, 2020

三橋昭：麒麟模様の馬を見た 目覚めは瞬間の幻視から．島村八重子(編) 小野賢二
郎(監)，メディケア・プラス，東京，pp5-175, 2020

宮内淑史，神谷雄己：【続・脳血管内治療専門医への道-そしてその先へ】疾患解説 専
門医取得に向けた知識と実際 診断脳血管撮影．脳神経外科速報編集委員会，脳神経
外科速報．株式会社メディカ出版，大阪，30:pp15-19, 2020

宮内淑史，神谷雄己：脳梗塞急性期・血管内治療の最前線．「Cardio-Coagulation」
編集委員会発行・編集．Cardio-Coagulation. 株式会社メディカルレビュー社，大阪，
pp15-21, 2020

(D) 研究報告書

なし

(E) その他（一般向け著書等を含む）

a. 英文

なし

b. 和文

なし

(2) 学会・研究会等

(A) 特別講演/招待講演/教育講演

a. 国際学会, シンポジウム

Ono K. Advances in the Diagnosis of Parkinson's disease (Up-to-date). Chinese Society of Microcirculation Neurodegenerative Diseases Committee (中国微循环学会神经变性病专业委员会), 中国, 2020.10.24

b. 国内学会, 研究会, シンポジウム

市川博雄：農薬の神経毒性学. 第 61 回日本神経学会学術大会, 岡山, 2020.8.31-9.2

小野賢二郎：パーキンソン病におけるアミロイドβの位置づけ. 第 19 回高松国際パーキンソン病シンポジウム in TOKYO, 東京, 2020.1.10-12

小野賢二郎：認知症治療の知 アルツハイマー病の疾患就職療法の展望. 第 40 回日本脳神経外科コンgres総会, 金沢, 2020.8.9-12

小野賢二郎：アルツハイマー病の疾患修飾療法の展望. 第 50 回日本神経精神薬理学会年会, 第 42 回日本生物学的精神医学会年会, 第 4 回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP 合同年会), 仙台, 2020.8.21-23

小野賢二郎：超高齢発症の認知症疾患. 第 61 回日本神経学会学術大会, 岡山, 2020.8.31-9.2

小野賢二郎：HMW Aβ oligomers are important targets for disease modifying approach of Alzheimer's disease, 第 61 回日本神経学会学術大会, 岡山, 2020.8.31-9.2

小野賢二郎：αシヌクレイン凝集の動的観察. 第 61 回日本神経学会学術大会, 岡山, 2020.8.31-9.2

小野賢二郎：医師の働き方改革を巡る医療現場の実際. 第 61 回日本神経学会学術大会, 岡山, 2020.8.31-9.2

小野賢二郎：アルツハイマー病の疾患修飾療法のターゲットとしてのプロトフィブリル. 第 63 回日本神経化学学会大会, 東京, 2020.9.10-12

小野賢二郎：AD 病態に即した疾患修飾へのアプローチ．第 63 回日本神経化学学会大会，東京，2020.9.10-12

小野賢二郎：認知症に挑む 認知症の疾患修飾療法への光は見えるか？ 第 63 回日本神経化学学会大会，東京，2020.9.10-12

小野賢二郎：レビー小体病：疾患修飾へのアプローチ．日本脳神経外科学会第 79 回学術総会，岡山，2020.10.15-17

小野賢二郎：サプリメントに焦点を当てたアルツハイマー病に対する疾患修飾へのアプローチ．第 2 回日本脳サプリメント学会，横浜，2020.10.24

小野賢二郎：A β を中心とするアプローチ．第 38 回日本神経治療学会学術集会，東京，2020.10.28-30

小野賢二郎：腸内微生物叢由来フェノール化合物の病態蛋白凝集制御効果．第 38 回日本神経治療学会学術集会，東京，2020.10.28-30

小野賢二郎： α -シヌクレイン凝集に焦点をあてたパーキンソン病の疾患修飾へのアプローチ．第 38 回日本神経治療学会学術集会，東京，2020.10.28-30

小野賢二郎：糖尿病と認知症．第 35 回日本糖尿病合併症学会・第 26 回日本糖尿病眼学会総会，金沢，2020.10.30-31

小野賢二郎：A β オリゴマーに焦点を当てたアルツハイマー病の疾患修飾へのアプローチ．第 39 回日本認知症学会学術集会，名古屋，2020.11.26-28

小野賢二郎：アルツハイマー型認知症におけるアミロイド仮説を再考する．第 35 回日本老年精神医学会，米子，2020.12.20-22

神谷雄己，栗城綾子，宮内淑史，田中健一郎，小室浩康，藤井隆史，福田早織，加藤悠太，和田隆秀，阪本有，山口巖史，池田尚人，水間啓太，小野賢二郎：働き方や教育からみた時短．第 45 回日本脳卒中学会学術集会，横浜，2020.8.24-25

神谷雄己：内科医にできること・すべきこと．第 45 回日本脳卒中学会学術集会，横浜，2020.8.24-25

神谷雄己：脳神経内科医が行う脳血管内治療，できること・すべきこと．第 61 回日本神経学会学術大会，岡山，2020.8.31-9.2

神谷雄己, 宮内淑史, 水間啓太, 田中健一郎, 栗城綾子, 福田早織, 加藤悠太, 和田隆秀, 小室浩康, 藤井隆史, 阪本有, 池田尚人: Solitaire を軸としたシンプルなテクニックでも良好な治療成績と効果的なラーニングカーブは十分に確保できる. 第 36 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 京都, 2020.11.19-21

栗城綾子, 神谷雄己, 田中健一郎, 宮内淑史, 水間啓太, 飯塚奈都子, 藤井隆史, 加藤悠太, 小野賢二郎, 福岡裕人, 池田尚子, 丹野郁, 望月泰秀, 新家俊郎: “卵円孔開存の関与があり得る潜因性脳梗塞” の治療の実際とこれから. 第 23 回日本栓子検出と治療学会, 東京, 2020.10.24-25

篠原もえ子, 浜口毅, 小野賢二郎, 山田正仁: 中島町研究に基づく認知症予防法開発の取り組み. 第 35 回日本老年精神医学会, 米子, 2020.12.20-22

二村明德: 変動する認知症. 第 61 回日本神経学会学術大会 教育コース認知症道場, 岡山, 2020.8.31-9.2

山田正仁, 篠原もえ子, 小野賢二郎, 浜口毅: Prevention of dementia from a population-based cohort study in Nakajima, Japan. 第 39 回日本認知症学会学術集会, 名古屋, 2020.11.26-28

(B) 一般演題

a. 国際学会, シンポジウム

Kimura AM, Yasumoto T, Mori Y, Oguchi T, Umino M, Umino A, Nakamura S, Inoue T, Yamada M, Teplow DB, Kiuchi Y, Tsuji M, Ono K. Myricetin prevents A β oligomers-induced neurotoxicity via cell membrane damage. 15th International Conference on Alzheimer's and Parkinson's Diseases, Wien, 2020.4.3

Kimura AM, Yasumoto T, Mori Y, Oguchi T, Umino M, Umino A, Nakamura S, Inoue T, Yamada M, Teplow DB, Kiuchi Y, Tsuji M, Ono K. Vitamin B12 may prevent A β oligomer-induced neurotoxicity in Alzheimer's Disease. Alzheimer's Association International Conference AAIC2020, Amsterdam, 2020.7.27-31

Kuroda T, Honma M, Mori Y, Futamura A, Sugimoto A, Yano S, Kinno R, Murakami H, Ono K. Relationship between Cerebral Microbleeds, Ventricular Enlargement and White Matter Hyperintensities in Alzheimer's Disease. Alzheimer's Association International Conference AAIC2020, Amsterdam, 2020.7.27-31

Ono K, Murakami H, Tokuda T, El-Agnaf OMA, Ohmichi T, Miki A, Ohashi H, Owan Y, Saito Y, Yano S, Tsukie T, Ikeuchi T. Correlated levels of cerebrospinal fluid pathogenic proteins in drug-naïve Parkinson's disease. Alzheimer's Association International Conference AAIC2020, Amsterdam, 2020.7.27-31

Yasumoto T, Takamura Y, Tsuji M, Nakayama T, Imamura K, Inoue H, Nakamura S, Inoue T, Kimura A, Yano S, Nishijo H, Kiuchi Y, Teplow DB, Ono K. High molecular weight amyloid β 1-42 oligomers induce neurotoxicity via plasma membrane damage. Alzheimer's Association International Conference AAIC2020, Amsterdam, 2020.7.27-31

b. 国内学会, 研究会, シンポジウム

石田敦士, 小菅将太, 浅野未希, 大橋英朗, 森友紀子, 笠井英世, 稗田宗太郎, 小野賢二郎: 大動脈縮窄症が脳梗塞の原因と考えられた一例. 第 665 回日本内科学会関東地方会, 東京, 2020.12.12

石本陽平, 高橋寛治, 中島潤也, 神谷雄己, 崔昌五, 佐藤久弥, 加藤京一: 3DRA における再構成閾値と血管径が血管描出に与える影響. 第 36 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 京都, 2020.11.19-21

碓井雄太, 中野博人, 小松潤史, 疋島貞雄, 柏原健伸, 尾崎太郎, 島綾乃, 柴田修太郎, 進藤桂子, 高橋良一, 池田篤平, 森永章義, 能登大介, 高橋和也, 野崎一朗, 坂井健二, 浜口毅, 岩佐和夫, 小野賢二郎, 山田正仁: 孤発性 CJD 患者における脳波と年齢についての検討. 第 61 回日本神経学会学術大会, 岡山, 2020.8.31-9.2

小野賢二郎: アルツハイマー病の疾患修飾療法のターゲットとしてのプロトフィブリル. 第 63 回日本神経化学学会大会, 東京, 2020.9.10-12

柿沼佑樹, 金野竜太, 木村太朗, 久保田怜美, 大橋英朗, 内山正信, 緒方浩顕, 成島道昭, 小野賢二郎, 坂下暁子: 非ヘルペス性急性辺縁系脳炎を契機に発症したたこつば型心筋症の一例. 第 117 回日本内科学会総会・講演会 サテライトシンポジウム「医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ」, 東京, 2020.4.11-11

兼元みずき, 矢野怜, 稗田宗太郎, 小野賢二郎: パーキンソン病における睡眠障害の頻度とその対応. 第 61 回日本神経学会学術大会, 岡山, 2020.8.31-9.2

兼元みずき, 澤井綾子, 大橋英朗, 栄良樹, 矢野怜, 稗田宗太郎, 小野賢二郎: 皮下注免疫グロブリン療法を導入した難治性 CIDP の 38 歳男性例. 第 38 回日本神経治療学会学術集会, 東京, 2020.10.28-30

神谷雄己, 宮内淑史, 田中健一郎, 栗城綾子, 福田早織, 加藤悠太, 和田隆秀, 小室浩康, 藤井隆史, 水間啓太, 阪本有, 池田尚人: 遠位治療は ADAPT 単独で終わるのが理想的である. 第 36 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 京都, 2020.11.19-21

木村篤史, 安本太郎, 森友紀子, 小口達敬, 海野真一, 海野麻未, 宇高結子, 中村史朗, 井上富雄, 辻まゆみ, 小野賢二郎, 木内祐二: ミリセチンは抗酸化作用を介し, ミトコンドリア・細胞膜でアミロイド β オリゴマーによる神経毒性を抑制する. 第 363 回昭和大学学士会例会, 東京, 2020.5.30

木村篤史, 安本太郎, 森友紀子, 小口達敬, 海野真一, 海野麻未, 中村史朗, 井上富雄, 辻まゆみ, 木内祐二, 小野賢二郎: ビタミン B12 はアミロイド β オリゴマーによる神経毒性を抗酸化作用により抑制する. 第 39 回日本認知症学会学術集会, 名古屋, 2020.11.26-28

栗城綾子, 神谷雄己, 田中健一郎, 宮内淑史, 水間啓太, 小室浩康, 福田早織, 藤井隆史, 加藤悠太, 和田隆秀, 小野賢二郎: TCCFI-HITS による閉鎖術の適応となり得る卵円孔開存の診断. 第 39 回日本脳神経超音波学会総会, 福岡, 2020.12.8-9

黒田岳志, 二村明徳, 森友紀子, 杉本あずさ, 矢野怜, 稗田宗太郎, 春日健作, 池内健, 小野賢二郎: アルツハイマー病と正常圧水頭症の鑑別: 脳脊髄液 $A\beta$ 1-42/1-40, $A\beta$ 1-42/1-38 比の有用性. 第 61 回日本神経学会学術大会, 岡山, 2020.8.31-9.2

黒田岳志, 森友紀子, 二村明徳, 杉本あずさ, 笠井英世, 矢野怜, 稗田宗太郎, 春日健作, 池内健, 小野賢二郎: アルツハイマー病と正常圧水頭症の鑑別における脳脊髄液バイオマーカーの有用性. 第 39 回日本認知症学会学術集会, 名古屋, 2020.11.26-28

石代優美香, 澤井綾子, 野原哲人, 渡辺大士, 水間啓太, 杉本あずさ, 笠井英世, 稗田宗太郎, 小野賢二郎: 構音障害で発症した Marchiafava-Bignami 病の一例. 第 665 回日本内科学会関東地方会, 東京, 2020.12.12

小室浩康, 栗城綾子, 加藤悠太, 和田隆秀, 福田早織, 藤井隆史, 田中健一郎, 宮内淑史, 神谷雄己, 水間啓太, 小野賢二郎: 急性期脳梗塞患者の心房細動検出に対する 72 時間記録ホルター心電計の有用性. 第 45 回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2020.8.24-25

澤井綾子, 兼元みずき, 大橋英朗, 栄良樹, 矢野怜, 稗田宗太郎, 小野賢二郎: 皮下注免疫グロブリン療法を導入した難治性 CIDP の 38 歳男性例. 第 234 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2020.9.5

篠原もえ子, 小野賢二郎, 浜口毅, 永井俊匡, 小林彰子, 小松潤史, 横濱美晴, 岩佐和夫, 山田正仁: Melissa officinalis extract containing rosmarinic acid for

Alzheimer's disease. 第 61 回日本神経学会学術大会, 岡山, 2020.8.31-9.2

正路大樹, 大湾喜行, 高橋聖也, 安本太郎, 野元祥平, 小野賢二郎, 馬場康彦: ウレアーゼ産生菌の尿路感染による高アンモニア血症が原因で意識障害を呈した 88 歳女性例. 第 235 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2020.12.5

田中健一郎, 神谷雄己, 栗城綾子, 宮内淑史, 加藤悠太, 和田隆秀, 藤井隆史, 飯塚奈都子, 光樂泰信, 阪本有, 和田晃, 池田尚人: Trousseau 症候群に起因する脳梗塞患者における脳血管内治療の検討. 第 36 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 京都, 2020.11.19-21

鍋島陽子, 木村篤史, 所澤任修, 二村明德, 黒田岳志, 村上秀友, 小野賢二郎: 進行性核上性麻痺とアルツハイマー型認知症の合併が疑われた一例. 第 665 回日本内科学会関東地方会, 東京, 2020.12.12

二村明德, 稗田宗太郎, 森友紀子, 春日健作, 杉本あずさ, 笠井英世, 黒田岳志, 矢野怜, 池内健, 小野賢二郎: AD と DLB の脳血流 SPECT の有用性. 第 39 回日本認知症学会学術集会, 名古屋, 2020.11.26-28

松岡馨, 小室浩康, 二村明德, 杉本あずさ, 笠井英世, 稗田宗太郎, 小野賢二郎: 両側淡蒼球に遅発性の T2 高信号を呈した熱中症の 55 歳男性例. 第 235 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2020.12.5

宮内淑史, 神谷雄己, 加藤悠太, 和田隆秀, 福田早織, 藤井隆史, 小室浩康, 栗城綾子, 山口巖史, 阪本有, 池田尚人, 小野賢二郎: 軽症脳梗塞で発症した主幹動脈狭窄・閉塞症の臨床的増悪の予測. 第 45 回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2020.8.24-25

宮内淑史, 神谷雄己, 栗城綾子, 小室浩康, 藤井隆史, 福田早織, 和田隆秀, 加藤悠太, 池田尚人, 和田晃, 阪本有, 光樂泰信: 頸部内頸動脈および頭蓋内動脈 tandem 閉塞に対する同軸治療. 第 36 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 京都, 2020.11.19-21

森友紀子, 宮之原麻衣, 佐々木晶子, 齋藤明日香, 野出典子, 佐藤亮太, 横井祐子, 稗田宗太郎, 小野賢二郎: 非薬物療法としてのボランティア活動の効果の検討-その効果と地域での普及への課題-. 第 21 回日本認知症ケア学会, 宮城, 2020.6.1

森友紀子, 小口達敬, 木村篤史, 辻まゆみ, 小野賢二郎, 木内祐二: 血清 BDNF, 脳脊髄液 irisin と Alzheimer 病の重症度との関連性. 第 41 回日本臨床薬理学会学術集会, 福岡, 2020.12.3-5

門馬佑太郎, 黒田岳志, 浅野未希, 大橋英朗, 久保田怜美, 二村明德, 小野賢二郎: 再発予防薬としてフマル酸ジメチルを使用した多発性硬化症の若年女性例. 多発性硬化症学術講演会, 東京, 2020.10.23

Yasumoto T, Takamura, Tsuji M, Watanabe-Nakayama T, Imamura K, Inoue H, Nakamura S, Inoue T, Kimura A, Yano S, Nishijo H, Kiuchi Y, Teplow DB, Ono K. High molecular weight Amyloid β oligomer induces disruption and structural change of cell membrane. 第 61 回日本神経学会学術大会, 岡山, 2020.8.31-9.2

安本太郎, 高村雄策, 辻まゆみ, 中山隆宏, 今村恵子, 井上治久, 中村史朗, 井上富雄, 木村篤史, 矢野怜, 西条寿夫, 木内祐二, デービッド・テプロフ, 小野賢二郎: 高分子 A β オリゴマーは細胞膜完全性を崩壊し細胞毒性を發揮する. 第 39 回日本認知症学会学術集会, 名古屋, 2020.11.26-28

山本謙, 石田敦士, 野元祥平, 黒川信二, 大湾喜行, 小野賢二郎, 馬場康彦: パーキンソン病における血圧日内変動と左室拡張能との関連. 第 61 回日本神経学会学術大会, 岡山, 2020.8.31-9.2

山本謙, 石田敦士, 野元祥平, 黒川信二, 大湾喜行, 小野賢二郎, 馬場康彦: 初回のサーフィン後に急性脊髄障害をきたした 22 歳女性例. 第 234 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2020.9.5

(C) 研究班: 班会議等

二村明德: 言語的時間認知の探索. 文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究 時間生成学, 2019 年度第 2 回領域会議, 大阪, 2020.2.1-2

水間啓太: 昭和・慈恵 PFO 研究 班会議 (PFO-PSUP Detection Research (PPDR)) 第 1 回会議, 東京, 2020.11.23

水間啓太: 経食道心臓エコー検査を用いた脳塞栓症の塞栓源, 治療, 予後に関する観察研究 (STEP-TEE) 第 2 回会議, 東京, 2020.12.4

(D) 他大学での講義

なし

(E) 市民講座, セミナー, 研修会等

小野賢二郎: レビー小体病と認知機能障害. Parkinson's Disease Seminar in KAWASAKI, 東京, 2020.1.20

小野賢二郎：レビー小体病：疾患修飾へのアプローチ。 Chuetsu Neurology seminar, 長岡, 2020.1.28

小野賢二郎：レビー小体病と認知機能障害。 品川大田 Neuro Seminar Series, 東京, 2020.2.7

小野賢二郎：パーキンソン病と認知機能障害。 Fujimoto Parkinson's Disease Conference, 東京, 2020.2.10

小野賢二郎：アルツハイマー型認知症治療を考える。 ONO メディカルナビ WEB ライブセミナー, 東京, 2020.4.20

小野賢二郎： α -シヌクレイン凝集から疾患修飾を考える。 Novartis Web Symposium, 東京, 2020,6,10

小野賢二郎：認知症の人がよりよく暮らしていくことを支えるための医学・生活支援講座。 品川福祉カレッジ 認知症ケア専門コース 品川介護福祉専門学校, 東京, 2020.8.18

小野賢二郎：アルツハイマー型認知症の診断と治療。 福井県医師会産業医研修会, 福井, 2020.8.23

小野賢二郎：パーキンソン病：疾患修飾を念頭に置いた治療的アプローチ。 パーキンソン病治療について考える これまでと、これからの新しい治療, 東京, 2020.8.28

小野賢二郎：Parkinson's Disease Web Conference. パーキンソン病病態制御と早期治療を考える, 金沢, 2020.9.15

小野賢二郎：アルツハイマー病の疾患修飾療法に向けて鑑別診断と治療アプローチを考える。 イクセロンパッチ Web Live Meeting 2020, 東京, 2020.9.16

小野賢二郎：ウェアリングオフの治療戦略。 パーキンソン病治療セミナー in 城南, 東京, 2020.9.17

小野賢二郎：アルツハイマー型認知症の初期症状 冷蔵庫の中が片付けられない患者さん。 アルツハイマー型認知症治療剤 イセクロンパッチ美忘録, 東京(m3.com), 2020.9.18

小野賢二郎：The latest development of AD therapeutic drugs. Eisai Advance Dementia Science Beijing. 北京, 2020.9.20

小野賢二郎：第4回 認知症と周辺症状を考える会。パーキンソン病：疾患修飾を念頭に置いた治療的アプローチ，東京，2020.9.24

小野賢二郎： α シヌクレイン凝集に焦点を当てた疾患修飾へのアプローチ。
Parkinson's Disease Seminar. 東京，2020.9.30

小野賢二郎：アルツハイマー病：疾患修飾へのアプローチ。第2回下野神経内科懇話会，東京，2020.10.16

小野賢二郎：パーキンソン病の治療的アプローチを考える。Takeda Parkinson's Disease Web Symposium(m3.com)，東京，2020.10.21

小野賢二郎：アルツハイマー病：疾患修飾へのアプローチ。第13回高岡市の認知症を考える会，富山，2020.11.7

小野賢二郎：腸内微生物叢由来フェノール化合物の α シヌクレイン蛋白凝集制御効果。東京，2020.11.19

小野賢二郎：レビー小体病：疾患修飾へのアプローチ。第31回茨城神経疾患カンファレンス，茨城，2020.11.20

小野賢二郎：アルツハイマー型認知症の診断と治療。第8回認知症ネットワーク研究会，東京，2020.12.10

小野賢二郎：パーキンソン病病態制御と早期治療を考える。奈良パーキンソン病治療を考える会 2020，奈良，2020.12.11

笠井英世：片頭痛診療と脳梗塞～並存による弊害について～。城南地区脳卒中カンファレンス～Online～，東京，2020.12.15

兼元みずき：パーキンソン病治療について考える。小野薬品講演会，東京，2020.8.28

兼元みずき：IVIGでの維持療法が奏功した難治性CIDPの一例。第5回城南神経疾患フォーラム，東京，2020.10.8

兼元みずき：難治性CIDPについての治療選択。Metropolitan CIDP Conference，東京，2020.12.11

神谷雄己：総頸動脈直接穿刺による血栓回収。第23回Tokyo Stroke Intervention Seminar，東京，2020.2.1

神谷雄己：安静フリーの BOT. 第 6 回軽井沢脳血管内治療セミナー，長野，
2020.7.26

神谷雄己：けいれんで発症した TSSdAVF の一例. ALICE Tokyo 2020, 横浜，
2020.10.4

黒田岳志：当院のてんかん診療 ～データから分かること～. Neurologist Epilepsy
W Seminar, 東京, 2020.1.27

黒田岳志：高齢者における抗てんかん薬の使い分け. 品川大田 Neuro Seminar
Series, 東京, 2020.2.7

黒田岳志：パーキンソン病. 品川区医師会難病講演会, 東京, 2020.9.17

黒田岳志：当院における視神経脊髄炎スペクトラム障害の診療について. JSTN
Web Seminar, 東京, 2020.11.6

黒田岳志：アルツハイマー病と正常圧水頭症の鑑別 ～脳脊髄液バイオマーカーの有用
性について～. 城南 Neuro Imaging セミナー, 東京, 2020.11.10

栄良樹：パーキンソン病治療セミナー in 横浜北部. 新規 COMT 阻害剤の対象患者
像を考える会, 横浜, 2020.10.7

高橋聖也：消化管機能異常を合併した進行期パーキンソン病治療に苦慮した 80 歳男
性例. パーキンソン病治療セミナー, 横浜, 2020.10.13

馬場康彦：パーキンソン病の診療～MAO-B 阻害薬の役割とは～. Parkinson's
Disease Frontier Seminar in ISHIKAWA, 金沢, 2020.1.24

馬場康彦：パーキンソン病の診療～MAO-B 阻害薬ラサギリンへの期待～. Takeda
Parkinson's Disease Web Symposium, 東京, 2020.1.31

馬場康彦：パーキンソン病の診療～MAO-B 阻害薬の役割とは～. Parkinson's
Disease Symposium in TOYAMA, 富山, 2020.2.5

馬場康彦：パーキンソン病の診療～MAO-B 阻害薬の役割とは～. 神経疾患フォーラ
ム in 山梨, 山梨, 2020.2.12

馬場康彦：パーキンソン病の診療～MAO-B 阻害薬ラサギリンへの期待～. Takeda
Parkinson's Disease Web Symposium, 東京, 2020.2.26

馬場康彦：パーキンソン病の診療～MAO-B 阻害薬ラサギリンへの期待～. Takeda Parkinson's Disease Web Symposium, 東京, 2020.6.26

馬場康彦：With COVID-19 時代におけるパーキンソン病診療について. Takeda Parkinson's Disease Web Symposium, 東京, 2020.7.17

馬場康彦：With COVID-19 時代におけるパーキンソン病診療について. Takeda Parkinson's Disease Web Symposium, 東京, 2020.7.30

馬場康彦：With COVID-19 時代におけるパーキンソン病診療について. Parkinson's Disease Eisai Web Seminar, 横浜, 2020.8.24

馬場康彦：新規 COMT 阻害薬オピカポン～L-dopa 治療を支える新たな選択肢～. パーキンソン病 WEB セミナー, 横浜, 2020.9.15

馬場康彦：With COVID-19 時代におけるパーキンソン病診療について. NOVARTIS パーキンソン病 WEB シンポジウム, 横浜, 2020.9.28

馬場康彦：新規 COMT 阻害薬オピカポン～L-dopa 治療を支える新たな選択肢～. パーキンソン病 WEB セミナー, 横浜, 2020.9.30

馬場康彦：MAO-B 阻害薬ラサギリン～L-dopa 治療を支える次の一手か～. Takeda Parkinson's Disease Web Symposium, 東京, 2020.10.5

馬場康彦：新規 COMT 阻害薬オピカポン～L-dopa 治療を支える新たな選択肢～. パーキンソン病治療セミナー, 横浜, 2020.10.13

馬場康彦：MAO-B 阻害薬ラサギリン～L-dopa 治療を支える次の一手か～. Takeda Parkinson's Disease Web Symposium, 東京, 2020.10.16

馬場康彦：新規 COMT 阻害薬オピカポン～L-dopa 治療を支える新たな選択肢～. パーキンソン病 WEB セミナー, 横浜, 2020.10.20

馬場康彦：新規 COMT 阻害薬オピカポン～L-dopa 治療を支える新たな選択肢～. パーキンソン病治療セミナー, 横浜, 2020.10.27

馬場康彦：新規 COMT 阻害薬オピカポンの役割とは. パーキンソン病治療を考える in 湘南, 横浜, 2020.11.9

馬場康彦：With COVID-19 時代におけるパーキンソン病診療について. 大塚製薬 e 講演会, 東京, 2020.11.10

馬場康彦：MAO-B 阻害薬ラサギリン～L-dopa 治療を支える次の一手か～. Takeda Parkinson's Disease Web Symposium, 東京, 2020.12.1

馬場康彦：MAO-B 阻害薬の位置づけ. 横浜北部 Parkinson's Disease Web Seminar, 横浜, 2020.12.14

馬場康彦：新規 COMT 阻害薬オンジェンティス～L-dopa 治療を支える新たな選択肢～. パーキンソン病治療セミナー in 横浜西部, 横浜, 2020.12.18

馬場康彦：パーキンソン病の薬物療法～新規薬剤の特徴について～. 神経変性疾患セミナー in 南大阪, 堺, 2020.12.19

稗田宗太郎：当院での DuoDopa 初回導入例の経過と課題. 城南地区進行期 PD Forum, 東京, 2020.2.14

稗田宗太郎：COMT 阻害剤のメリット・オンジェンティスの特性を踏まえた今後の期待. 新しい PD 治療を考える in 城南, 東京, 2020.10.7

稗田宗太郎：MAO-B 阻害薬の効果を再考する. 明日から役立つ神経治療勉強会 in 城南, 東京, 2020.11.19

水間啓太：塞栓源不明脳梗塞に対する昭和大学脳卒中チームの取り組み. Brain Heart 医療連携セミナー, 東京, 2020.9.10

水間啓太：脳・心連携～昭和大学 3 科で取り組む脳卒中診療～. 旗の台抗血栓療法研究会, 東京, 2020.10.9

水間啓太：緊急 PFO 閉鎖を行った 1 例. Metropolitan Brain Heart Forum, 東京, 2020.11.5

宮内淑史, 神谷雄己, 加藤悠太, 和田隆秀, 福田早織, 藤井隆史, 小室浩康, 田中健一郎, 栗城綾子. アクセス困難な右中大脳動脈閉塞症に対する血栓回収術の一例. 第 1 回 TRN 研究会, 東京, 2020.2.29

渡辺大士：COVID-19 と脳卒中診療～当院での対策をふまえて～. 脳卒中 Web セミナー, 東京, 2020.9.18

(3) その他の対外活動（委員会，取材など）

(A) 委員会等（学会の役員，委員等は除く）

小野賢二郎：荏原病院東京都地域拠点型認知症疾患医療センター連携協議会委員

笠井英世：区南部圏域脳卒中医療連携推進幹事会委員

二村明德：荏原病院東京都地域拠点型認知症疾患医療センター連携協議会委員

(B) 取材等

小野賢二郎：グッド！モーニング「上皇様一時意識失い倒れる」。テレビ朝日，
2020.1.31

小野賢二郎：衝撃 LIVE グッディ！「蛭子能収さん軽度の認知症が判明」。
フジテレビ，2020.7.14

小野賢二郎：「脳疾患の原因物質，凝集過程を可視化」。日本経済新聞朝刊，
日本経済新聞電子版，2020.9.7

小野賢二郎：主治医が見つかる診療所 SP「蛭子能収認知症改善プロジェクト」。
テレビ東京，2020.11.12

(4) 学会，研究会等の主催

なし

【6】 研究助成

小野賢二郎：厚生労働省・難治性疾患等政策研究事業「アミロイドーシスに関する調査研究」・研究分担者（研究代表者・内木宏延）

小野賢二郎：文部科学省／日本学術振興会・平成 31 年度科学研究費補助 基盤研究
(C)「膜障害に焦点を当てた高分子 AB オリゴマーの毒性機序に関する検討」・研究
代表者

小野賢二郎：日本医療研究開発機構・令和元年度 脳科学研究戦略推進プログラム（融合脳）「レビー小体型認知症（DLB）の病原性蛋白質 α シヌクレインの新規診断・治療効果判定法の開発」・研究分担者（研究代表者・望月秀樹）

小野賢二郎：日本医療研究開発機構・平成 30 年度 医療研究開発革新基盤創成事業（CiCLE）一般型 実用化開発タイプ「アルツハイマー病の新規治療薬の創出」・研究分担者（研究代表機関・日本臓器製薬株式会社）

小野賢二郎：文部科学省／日本学術振興会・平成 31 年度科学研究費補助 基盤研究（C）「アミロイド β 毒性阻害を標的としたアルツハイマー病発症予防健康食品成分の探索」・研究分担者（研究代表者・辻 まゆみ）

小野賢二郎：文部科学省／日本学術振興会・平成 31 年度科学研究費補助 基盤研究（C）「音楽運動療法を活用した地域医療福祉連携の認知症予防支援プログラムの開発と評価」・研究分担者（研究代表者・小口江美子）

木村篤史：文部科学省／日本学術振興会・令和 2 年度科学研究費補助 若手研究「ビタミン B12 のアルツハイマー病の予防・進行抑制機序の解明 基礎から臨床まで」・研究代表者

金野竜太：文部科学省／日本学術振興会・令和 2 年度科学研究費補助 基盤研究（C）「統語処理を支える脳内ネットワークの機能低下が言語機能に及ぼす影響」・研究代表者

杉本あずさ：文部科学省／日本学術振興会・令和 2 年度科学研究費補助 若手研究「アルツハイマー病における時間認知障害—関係発達論による神経心理学の展開—」・研究代表者

二村明德：文部科学省／日本学術振興会・令和 2 年度科学研究費補助 若手研究「忘れた時をつなぐ“ことば”の研究」・研究代表者

馬場康彦：文部科学省／日本学術振興会・令和元年度科学研究費 基盤研究（C）「パーキンソン症候群の難治性疼痛と歩行障害に対する脊髄刺激の影響」・研究代表者

【7】 専門医

(1) 学位の取得

久保田 怜 美

(2) 専門医・認定医の取得

(日本神経学会 神経内科専門医)

井 藤 尚 仁

大 橋 英 朗

渡 辺 大 士

(日本脳卒中学会指導医)

水 間 啓 太

【8】 喪 章

なし

【9】 特 許 (申請中も含む)

なし

【10】 附属病院の紹介

藤が丘病院

藤が丘病院脳神経内科は、脳神経外科と共同で脳神経センターを運営しております。一般病棟の他に脳卒中ケアユニット（SCU）3床を開設しております。SCUでは脳神経センターの専門スタッフによる治療のほか、3対1の看護、早期からのリハビリテーションを受けることが可能であり、急性期脳卒中の診療をさらに充実したものとし、より質の高い医療を提供できるものと考えております。また、救急隊や地域の医療機関からのスムーズな受け入れを実現すべく、脳卒中ホットラインも設置しております。治療では、脳梗塞超急性期には、経静脈的血栓溶解療法のほか、脳神経外科とも連携し、血栓回収ステントによる血管内血栓除去術などが専門医の判断で適応に応じて施行可能となっております。再発予防・急性期リハビリテーションの観点では、できる限り患者さんの負担が少ない検査の上で治療を選択し、必要に応じて適切な治療方針、早期のリハビリテーション介入を行い、患者さんに最良の治療を提供できるように尽くしております。

一方で、パーキンソン病や運動ニューロン疾患など、神経疾患全般の入院・外来診療も行っております。今後も地域の医療機関とも連携をとり、急性期医療、高度救急医療を実践する地域の基幹病院における一員としての役割を果たすとともに、地域医療に貢献できる診療科として努力して行きたいと考えております。

(文責:大湾喜行)



横浜市北部病院

昭和大学横浜市北部病院は、横浜市医療政策の一つである「市内を6ブロックに区分する医療圏配置計画」に基づく民設・民営の病院誘致により、2001年（平成13年）4月1日に、北部医療圏の急性期医療を担う中核病院として開院しました。脳神経内科は開院当初より、内科の診療部門の一つとして、腎臓・糖尿病・内分泌・血液・腫瘍・リウマチ膠原病などの各診療科と密な連携のもとに診療に従事しています。そのため、脳神経内科疾患だけでなく、内科疾患にからんだ神経疾患も多く、様々な症例に対応しています。対象疾患は脳神経内科全般であり、主に変性疾患、脳血管障害、脱髄性疾患、炎症性疾患、機能的疾患等、幅広く診療しています。また、内科の診療部門の一つとして、発熱などを主訴に来院する患者への初期対応も行っております。本年度は新型コロナウイルス関連の療が多くありました。

教育に関しては、丁寧な診察を行い、必要な検査を自分で考え、診断治療について自分の言葉でまとめることができるように指導しております。そして、興味を持った症例について学会で症例報告を行い、最終的に論文化できる能力を身に付けることを目標にしています（Kakinuma et al., *BMC Cardiovasc Disord*, in press）。

研究に関してはMRIなどの神経画像を用いた臨床研究を主としています。本年度は、東京大学大学院総合文化研究科の酒井邦嘉教授らと東京女子医科大学先端生命医科学研究所の村垣善浩教授らと共同して、神経膠腫による皮質構造変化の可視化に関する研究成果を報告しました（Kinno et al., *Cereb Cortex Comm*, 2020）。現在、カリフォルニア大学サンフランシスコ校脳神経外科のEdward Chang教授とマックス・プランク認知神経科学研究所のAngela D. Friederici教授と共同して、神経膠腫患者の言語機能に関する知見をまとめております。

（文責：金野竜太）



江東豊洲病院

・診療

江東豊洲病院 脳神経内科は、外科手術を必要としない脳神経系の診療全般を担当しております。日本神経学会指導医・専門医のほか、脳卒中専門医、脳神経血管内治療指導医・専門医、脳神経超音波検査士を有し、脳神経疾患の急性期診療のほとんどを自科で包括的に行うことができます。また、脳神経外科と連携し、脳血管センターとして夜間を含め終日独立した救急診療を行っております。

・対象疾患

急性期では、脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、くも膜下出血などの脳卒中を中心に診療するとともに、脳炎、髄膜炎、けいれん、ギランバレー症候群などその他の急性期脳神経疾患を含め、脳神経の救急疾患を幅広く対象としています。慢性期では、脳血管狭窄症や脳動脈瘤、脳動静脈瘻などの脳血管障害を中心に診療しております。

・治療

できる限り患者さんの負担が少ない検査、治療を選択します。また、脳神経外科、リハビリテーション科と連携し、適切な手術方針、早期のリハビリテーション介入をすすめ、患者さんの健康寿命延伸に努めております。

・特徴的な診療領域

当科の特色として、脳神経血管内治療と脳神経超音波検査があります。脳神経血管内治療は外科手術と比べて患者さんの負担が少ない治療です。江東豊洲病院では脳神経内科が担当し、内科治療を軸とした包括的治療の一環として取り入れ、継ぎ目のない治療を行っております。また、患者さんに対する侵襲の少ない超音波検査を積極的に使用し、脳神経超音波検査士の資格を持つ医師が専門的な診断を行っております。

・研修

日本神経学会の教育施設であるほか、日本脳卒中学会、日本脳神経超音波学会、日本脳神経血管内治療学会の研修施設であり、これらの専門医取得が可能です。とくに日本脳神経血管内治療学会専門医に関しては、脳神経内科に所属して取得が可能な希少な施設です。

・実績（2020年1月～12月）

総入院患者数 398人

（脳梗塞 209人 うちアルテプラゼ
(tPA) 静注療法 29件、カテーテルによる
血行再建術 40件）

経食道心エコー検査 91件

脳神経血管内治療 72件

（文責：栗城綾子）



【11】 昭和大学脳神経内科 在籍者名簿

[昭和大学病院・附属東病院]

主任教授（診療科長）	小 野 賢二郎
名誉教授	河 村 満
准教授	稗 田 宗太郎
准教授（診療科長補佐）	矢 野 怜
講師（病棟医長）	黒 田 岳 志
講師（外来医長・医局長）	笠 井 英 世
講師	杉 本 あずさ
講師	二 村 明 徳
講師	水 間 啓 太
助教	兼 元 みずき
助教	渡 辺 大 士
助教	渡 辺 慶 子
助教	安 本 太 郎
助教	小 室 浩 康
助教	イズデプスキ彬子
助教（医科）	久保田 怜 美
助教（医科）	野 原 哲 人
助教（医科）	井 藤 尚 仁
大学院生	森 友紀子
大学院生	門 馬 佑太郎
大学院生	大 橋 英 朗
大学院生	高 橋 聖 也
大学院生	木 村 篤 史
大学院生	三 木 綾 子
内科専攻医	石 田 敦 士
内科専攻医	澤 井 綾 子
内科専攻医	正 路 大 樹
内科専攻医	鍋 島 陽 子
内科専攻医	石 代 優美香
内科専攻医	菊 地 優 一
内科専攻医	島 田 豪
内科専攻医	中 西 達 彌
内科専攻医	松 岡 馨

臨床心理士	宮之原 麻 衣
研究補助員	石 引 由 美

[藤が丘病院]

准教授	馬 場 康 彦
講師	大 湾 喜 行
助教	野 元 祥 平
助教	浅 野 未 希
助教 (医科)	山 本 謙
助教 (医科)	刑 部 祐友子
内科専攻医	小 菅 将 太

[藤が丘リハビリテーション病院]

病院長／教授	市 川 博 雄
--------	---------

[横浜市北部病院]

講師	金 野 竜 太
助教	栄 良 樹
内科専攻医	柿 沼 佑 樹

[江東豊洲病院]

准教授	神 谷 雄 己
講師	栗 城 綾 子
助教	田 中 健一郎
助教	宮 内 淑 史
助教 (医科)	飯 塚 奈都子
内科専攻医	福 田 早 織
内科専攻医	藤 井 隆 史
内科専攻医	和 田 隆 秀
内科専攻医	加 藤 悠 太

編集後記

今回、医局年報第5号の作成に携わらせていただきました医局長の笠井です。

2020年は、とにもかくにも新型コロナウイルス感染症の一年でした。武漢から未確認の感染症が発生したのは2019年年末、我が国は大丈夫であろうとSARS、MARSのように対岸の火事として高を括っていました。しかし、2月の終わり頃から情勢が変わり、まだ感染者数はそれほど多くないものの、「もしかしたら」という考えが首をもたげ、3月になると父兄や在校生不在の卒業式の挙行という異常事態となり、4月7日に緊急事態宣言が発令され、ほとんどの施設では入学式が中止されました。わが昭和大学でも入学式、入職式は中止や大幅な規模縮小となり、対面授業ができずオンライン授業が急速に導入されました。

今回の新型コロナウイルスの感染流行で人の生活は大きく変わりました。何を失ったのか？ 行動変容としては、手洗い、マスク着用、三密を避け、コンビニエンスストアのレジでは間隔を空けて並ぶなどのsocial distanceを守り、飛沫感染防止のためのビニールカーテン越しに電子マネーで支払い、仕事では時差出勤やテレワーク、不足しているマスクは高額転売され、他のものまで便乗値上げされ、デマの流布で一時はトイレットペーパーまで店頭から消えるなどまで起こりました。電車内で咳でもしたら白い目でみられ、自粛しない店に対して誹謗中傷、自粛警察の出現、院内感染がクローズアップされ医療従事者やその家族への差別にまで及んだニュースも飛び交いました。

一方で明るいニュースもあります。この年報の編集をしている2021年初頭では、世界ではワクチン接種が始まり、治験段階より良い感染予防データがイスラエルから報告されるなど、明るい情報も出始めています。全体がコロナ感染を克服することで、はじめてマスクをつけず皆が集って気楽に会話ができる日常を取り戻すことができるはずです。

コロナ禍の終焉は必ず来るはずです。その時、当脳神経内科はどうあるべきか？ コロナ禍以前と同様に大学病院としても地域医療としても当脳神経内科が必要とされなければなりません。そのためには今も努力を怠ってはいけない事であると身が引き締まる思いです。是非とも今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

最後になりますが、昭和大学脳神経内科に関わり支えてくださった関係各所の多くの方々に、この場を借りて改めて厚く御礼申し上げます。今後とも当医局を温かい目で見守って頂ければ幸いに存じます。

医局長 笠井 英世

